

# せっかち 園長の ひとりごと

2016、8、31

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

台風が何個も続けて来たりなど、やっぱり気候がキビシイですね。  
この夏、皆さんは体調を崩したりしなかったですか？  
暑い夏も必要ですが、早く秋のいい季節になってほしいですね。



さて、いよいよ2学期が始まりました。前回の「ひとりごと」で言いましたが、1学期の育ちの溜めが2学期そして3学期に向けて、目に見えるようになる・・・もちろん個人差はありますが、楽しみです。

どの学年でも、なぜか10月の中ごろくらいに、「子どもたちが一皮むけた気がする・・・」と成長を感じます。そんな時期に、0・1・2歳には「ミニミニ運動会」、3・4・5歳には「運動会」という行事があります。私たちはこのような行事を、年に何か所かある『育ちの節目』に行っています。さきほどの“10月の中ごろくらい”というのも、『育ちの節目』の一つです。「運動会」のような行事が、この『育ちの節目』にあると、これが子どもたちの育ちの溜めを飛躍させる、大きな“きっかけ”になるのです。



なので、私たちは行事のために、子どもを特訓で苦しめることはしません。

楽しくやっていると、いつの間にか（結果的に）、それが「ミニミニ運動会」や「運動会」になる。  
そして結果的にそこで、子どもたちは、育ちの階段を一段階ステップアップする。  
・・・そんなイメージで、私たちは行事を考えています。

楽しいと、脳の中で「セロトニン」が分泌され、学習効果やストレスへの時の心の安定などが強化されます。一方、無理やりの特訓では「セロトニン」は分泌されず、辛いだけでなく、これらの効果は期待できません。これは、最新の脳科学が教えるところ。遊びの大切さが証明されます。

↓続く

これに限らず、子どもは、何かやりたくないことを無理やりやらされても、とりあえずその時はできるようになるかもしれませんが、本当の意味での学習の定着は期待できません。（我が子の幸せとは別に家計から見ても、そこにお金をかけるのは、無駄ということになります。）

## さてまずはじめの話題、前回の続きです

一つ前の「ひとりごと」で、次のようなことをお伝えしました。

（前回の「ひとりごと」より）

最後の話題は、メイプルキッズ。今までも、一人ひとりを大切にした保育を心がけてきましたが、今、保育者たちがチャレンジしているのは、さらに、不必要に待たせず、より一人ひとりのペースを大切にする保育、です。3・4・5歳のイメージだと、食事場面ではみんなと一緒に「いただきます！」がいいなと思うのですが、とくに0・1歳の子どもでは思った以上に一人ひとりのペースが違います。

今回は紙面がないので、また次の「ひとりごと」で具体的な様子をお伝えしますね。私たちは常に、「保育の質」の向上にこだわります！

ということでしたので、ちょっと続きを・・・

### 現場の保育者たちの声

- 何時に起きて、どんな朝ごはんをいつ食べたかなど、小さい子どもたちは、それによってそれぞれのコンディションとなるので、園での暮らしも一人ひとりに沿う必要がある。
  - トイレトレーニング（オマル）でも、遊びの区切りを見て2，3人ずつで行くと、子どもたちの育っている姿をじっくり見ることができる。子どもと保育者のコミュニケーションもゆったりできて、いい。
  - グループみんなでオマルに行っていたときは、子どもたちは待たなくてはならなかった。もちろん、保育者は手遊びなどを工夫して、楽しく待てるようにしていたが、今のやり方になって、より自然な排泄（トイレ）ができ、子どもたちとのやり取りも、より自然になって非常によかった。
- などなど、この取組みは、子どもにとっても保育者にとっても、みんなにとってよかったようです。



## 次の話題は、遊び保育 ⇒小学校の教育

以前お伝えしましたが、メイプルキッズ・あかみ幼稚園で**いっぱい遊んだことが、結果として、最も効果的に、小学校以降の教育に「接続」**します。このことを、教育会・全国大会で私（中山）が発表しました（8/19）。以下に紹介するのは、その時の資料の一部です。

研究協力校である、赤見小学校の荒井校長先生から、「このプロジェクトを平成28年度も継続したい」とおっしゃっていただき、個人的には、「まずは、成功した！」と思いました。

それは研究協力校である赤見小学校と本園との「関係作り」が、成否を分ける大きな指標だと考えていたからです。

そこには、佐野市教育委員会、栃木県幼児教育センター、そして栃木県連合教育会との連携（というか、支援）があったからですが、相互の「関係作り」ができたことにより、年間通じた継続性のある取組みが可能になったからです。

この取組みでは、【知】【徳】【体】（「接続」カリキュラムの枠組み）すべてにおいて気付きがありました。例えば、・・・

- \*初めから係を決めないで小学校生活を始める「係活動」
- \*年長組の後半で大きさや形を表現する「言葉」

【知】・・・**学びの芽生えの軸**

【徳】・・・**協同性の育ちの軸**

【体】・・・**生活の自立の軸**



『これらは、あくまでも例であって、大切なのは、その考え方。』・・・荒井校長先生の言葉です。  
このような考え方とそれに基づく取組みが、少しでも地域に広がることを期待します。

## もう一つの話題・・・園舎の工事の報告

一度お伝えしたこともありましたが、改めて。

☆0・1歳児スペースの「メイプルポート」



メイプルポートは、1歳児のスペースを拡張し使い勝手を良くしつつ、1歳の子どもたちが0才児のスペースを通らずに園庭に出られるために作ったスペース。それプラス、メイプルポートは、0・1歳児の親子が朝夕出入りするところで、保育で使う時間以外の夕方には、保護者の待合スペースになり、そこでは我が子を待ちながら、スライドショーで、その日の保育を見ることができます。

☆3歳児スペース



3歳のスペースは、オープンスペースの良さを残しながら、隣の保育室の「音」の問題を解決するために行われた改修工事。今まで通りオープンな感じで子ども同士が交流しつつ、クラスの集まりでは隣のクラスを気にせず音楽を楽しんだり・・・。

## 最後に、お礼、昨日終わった「夏期保育」・・・

基本的に、体力に応じた暑さ対策として、休んでも欠席にならない午前保育の「夏期保育」があります。以前はバスが出ていましたが、ちょっと遊ぶと帰りのバスの時間になってしまい、子どもたちのもっと遊びたいという気持ちを大切に、皆様のご協力のおかげですが、今のような形になりました。これからもどうぞ、よろしくお願いします。

おまけです。

第2回 **子ども・子育て市民フォーラム**について。

9月24日（土）13：00から

佐野中央公民館 3階ホール

**猪熊弘子さん**が講師です。またお手紙がでます！